



特別 Column



お大師様を訪ねて (3) 赤鬼ボブ・ホーナー

米国には CC2005 (Computing Curricula 2005)¹⁾ というコンピュータカリキュラムがある。この CS 部分のカリキュラムは大学で電子工学を学びメーカーで長年プログラマとして働いてきた私もビックリするほど充実した内容である。ハードウェアから OS, ネットワーク, アプリケーションに至るまで揃っていてこれだけ勉強するには何年もかかるだろうと思ったが、実にこれは情報系の学生が1年間に学ぶ量であるとのことでもますます驚いた。現代の日本メーカーの Systems Engineer (所謂 SE という人たち) ではとても足元にも及ばない。

日本でもそれを元にした情報専門学科におけるカリキュラム標準 J07²⁾ を早稲田大学 筧捷彦教授が中心となって情報処理学会で作りに上げているので、この CC2005 の精神と内容を十分に教え込んでくれれば日本のソフトウェア業界もまず安泰であるが、実際にこの中のどこまでを教えるかは先生方の裁量によるところが大きい。日本技術者教育認定機構 JABEE³⁾ によれば工学系学部学生が4年間に学ぶべき学習保証時間は 1800H 以上とのことであり、これには数学・英語・法学などの教養科目も含まれる。時として高校の学力が足りないために行われるリメディアル教育の時間数も含まれることもあるかもしれない。この時間数は企業では1年間の勤務時間数にあたる。JABEE の規定であるから日本中の大学がこの授業時間数を確保できていて当然と思ったのであるが、筧先生の話ではこの時間数を確保できるのは東京大学工学部などほんの一部に過ぎないとのこと。日本の現状恐るべし。さらなる驚きは、JABEE 自身が決めたこの学習保証時間を最近 200H 削減し 1600H とし、かつ教員の指導を必要とする「授業時間」に変更していることである。学習時間には自習時間も含んでいるという考えも凄いが(私が大学1年ときの幾何学の教科書「行列と行列式」(佐武一郎)は何度読んでも理解できず自習時間は無限に近かったがこれもカウントしていいのだろうか)、自習時間分を減らすというのもあまりに日本的な話であり過ぎる。

「地球の裏側にもうひとつの野球があった」という本を帰国後出版した赤鬼ボブ・ホーナーという野球選手がいたが「地球の裏側にもう1つのアクレディテーションがあった」と ABET (the Accreditation Board for Engineering and Technology)⁴⁾ に言われたいようにしたいものである。

参考文献

- 1) Computing Curricula 2005, http://www.acm.org/education/curric_vols/CC2005-March06Final.pdf
- 2) 情報専門学科におけるカリキュラム標準 J07, http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/j07/ed_j07.html
- 3) 日本技術者教育認定機構 JABEE, <http://www.jabee.org/>
- 4) ABET (the Accreditation Board for Engineering and Technology), <http://www.abet.org/>

湖東俊彦 (日本信頼性学会)